

“Tissue Repair and Regeneration” - Gordon Research Conferenceに参加して

慶應義塾大学医学部形成外科学教室
高谷 健人

本年5月28日-6月2日にかけて、米国ニューハンプシャー州 Colby-Sawyer Collage にて行われました“Tissue Repair and Regeneration” - Gordon Research Conference (GRC) に、当科助教・中島由佳里先生と参加いたしましたので、ご報告させていただきます。GRCは90年以上の歴史を持つ、化学、物理、生物学、科学、およびそれらの関連技術における最先端の研究について、トピックごとに行われる国際学術会議です。特徴として、いわゆる学会のようにただプレゼンテーションを聞くだけでなく、カジュアルかつ積極的なディスカッションの場が広く設けられており、大学院生やポスドクの若い研究者たちも発表の機会を与えられています。私は大学院に入学した4年前から本会議への出席を望んでおりましたが、コロナ禍の影響で叶わず、今回漸く参加させていただいた次第です。今回のChairはマンチェスター大学のKimberly Mace氏、Vice chairはキングス・カレッジ・ロンドンのTanya Shaw氏と、創傷治癒研究に携わる身としてはその名前を聞いただけで胸躍るような気持ちでした。

さて、会場である Colby-Sawyer Collage は、Bostonから車で2時間程度の郊外に位置し、のどかで空気の澄んだ環境にあります。我々が宿泊したのは学生寮のようなところで、ベッドにタオルケット一枚と机、シャワートイレ共同と、まさに合宿所のような感じで、一種の学生時代のような懐かしさも覚えました。広大な敷地内には、池や森が点在し、運動場やジム、プールなども自由に使うことができ、幸い天気にも恵まれ、心身ともにリフレッシュしながら学術的な活動に打ち込める最高の環境であったと言えます。



広大でのどかな環境は、日本にはない恵まれた環境でした(上・左下)
宿泊した部屋(右下)



NEWS LETTER

日本創傷治癒学会
2023.09
No.137

●日本創傷治癒学会事務局

〒160-8582

東京都新宿区信濃町35

慶應義塾大学

医学部形成外科学教室内

tel.03-3351-4774

fax.03-3352-1054

e-mail : info@jswh.com

URL : <https://www.jswh.com>

学会は朝9時から夜の21時30分まで、途中食事や coffee break、2時間の自由時間を挟みながら、各テーマにおける第一人者からの発表（講義）と、それに付随する若手研究者のshort presentationを聞き、活発なDiscussionを行うといった大変充実したものでした。最初の内は海外特有の白熱したDiscussion、そして食事やコーヒータイムを問わず常に議論を続ける参加者の姿勢に気圧されてしまいました。それでも、我々の研究分野と近い領域では、他国の若手研究者と議論を交わす機会もあり、次第にその「文化」にも慣れ、時間外でのコミュニケーションも取れるようになっていきました。日本人の参加者は我々を含めわずか4人であり、様々なバックグラウンドを持つ人々との会話は、それそのものが刺激的でした。

また、oral presentation以外に、全参加者が2日間、poster discussionの形式で16時-18時の間自らの研究成果をまとめて発表する機会があり、私と中島先生はこの形式で発表の機会をいただきました。

「Tissue Repair and Regeneration」と題してはいるものの幅広い分野からの参加者がいるため、我々が取り組んでいる「マウス胎仔の創傷治癒および再生」のトピックは興味深いものに映ったのか、たくさんの質疑応答の機会がありました。皮膚再生とactin cable研究の権威である Paul Martin氏に話しかけられ、写真撮影に応じていただいたのは、思い出に残る時間でした。

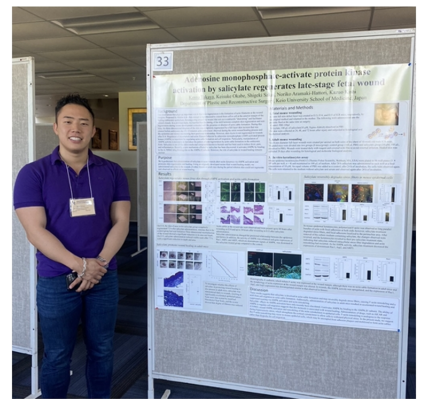
最終日にはBoston名物であるロブスターが一人1尾（または2尾）提供され、好きなだけ飲み食いしてよいということで、dinnerも大変盛り上がりました。

学会終了後はすぐにBostonに戻り、中島先生とBreweryを巡ったり、ボストン美術館を訪れたりして、学会の疲れを癒して1週間の旅程を終えました。

初のGRCへの参加ではありましたが、研究に対するモチベーションがaccelerateされ、とても有意義な1週間だったと感じています。なにより感銘を受けたのは、欧米の研究者は、研究そのものをライフワークとして楽しんでいることです。家族との時間や自分の趣味と同じカテゴリに研究がある、という彼らのスタンスは私自身の人生観に影響を与えるものでした。また次回以降も継続して参加していきたいと考えております。本学会参加に際してサポート頂きました、貴志和生先生、長崎大学・森亮一先生、産業医科大学・梅原敬弘先生にこの場を借りて御礼申し上げます。ありがとうございました。



Paul Martin先生と。
左は筆者、右は中島先生



Oral presentationにて



最終日のdinner
(左)ロブスターは一人1尾
(上)手前は長崎大学の森先生

最後に訪れたボストン美術館



WRRに会員の論文が掲載されました

会員の論文が Wound Repair and Regeneration の Volume31 Issue No.3 に掲載されました。論文名、会員の著者は下記の通りです。

投稿規程に関しましては、Wiley Online Libraryの本ジャーナルホームページの機関誌概要下にある濃緑色のナビゲーションバーより、<CONTRIBUTE> ⇒ <Author Guidelines>と進んでいただくか、以下のURLへアクセスして入手してください。

<https://onlinelibrary.wiley.com/page/journal/1524475x/homepage/forauthors.html>

なお、投稿方法は、ホームページからのオンライン投稿（要ログイン）となっております。

“Clinical utility of ⁶⁷Gallium-SPECT/CT for determining osteotomy indication in patients with lower-limb osteomyelitis”, (*Wound Repair and Regeneration*, 31:3, P. 384-392)

桐木 園子 先生 （日本医科大学付属病院 総合診療科）
高木 元 先生 （日本医科大学付属病院 総合診療科）
宮本 正章 先生 （日本医科大学付属病院 循環器内科・高気圧酸素治療室）



漢方は、自然から。

漢方は、たくさんの人の手と想いを経て生まれます。

長い年月をかけて、樹木が豊かな山を育み、その山で水が蓄えられる。

山で磨かれた水が、生薬をつくるための畑に注がれ、
生産農家のみなさんによって大切に育てられる。

人が本来持っている自然治癒力を高め、生きる力を引き出すことを目的とした漢方にとって、「自然」はいのちを強くする力そのものです。

その力をそこなうことなく、すべての人が受け取れる形にして届けたい。
そして健康に役立ててほしい。

100年以上、自然と向き合いつづけてきた私たちツムラの願いです。

自然と健康を科学する。漢方のツムラです。

ツムラ
www.tsumura.co.jp

資料請求・お問い合わせは、お客様相談窓口まで。
[医療関係者の皆様] 0120-329-970 [患者様・一般のお客様] 0120-329-930
受付時間 9:00~17:30(土・日・祝日は除く)

(2019年5月制作) RSCA801-D